

異年齢交流事業
コミュニケーション力向上プログラム

キャンプやろうぜ！！GOGOGO
事業報告書

～人と人との交流の環が広がる地域社会を目指して～

2009 年度 社団法人 鳥取青年会議所

青少年育成委員会

目 次

1．事業に至る背景	2 ページ
2．過去 2 年の取り組み(2007・ 2008)	3 ～ 4 ページ
3．異年齢交流の概要	5 ページ
4．『キャンプやろうぜ！！G O G O G O』～事業概要	6 ページ
5．事業の様子	7 ～ 18 ページ
6．アンケート結果(参加者・保護者)	19 ～ 20 ページ
7．参加者感想文	21 ～ 22 ページ
8．ボランティア感想文	23 ページ
9．『キャンプやろうぜ！！G O G O G O』～事業の考察	24 ページ
1 0．教育関係者の感想	25 ページ
1 1．おわりに	26 ページ

事業に至る背景

近年の日本は少子化による、核家族化などこどもを健全に育成していく環境が失われつつあるように感じます。一人っ子が多くなり、友達など同年代で遊ぶことはあっても世代の違うこども達が昔のように年長者がリーダーとなって年下のこどもを引っ張って行くようなことがなくなってきていると感じます。

こども達をとりまく環境がかわり、人と人との関わりが減少しゲームやインターネット、TV に大きく影響され、他人を思いやれない、自分がよければよいといった感情を持つ子が増え、凶悪犯罪を引き起こす原因にもなっていると思います。このような背景からこども達には、しっかりと人と人との繋がりを体感し思いやりの心を学んで欲しいと思います。

さまざまな年代のこども達が交流をすることで学び得る物は、昔は自然と身についていくものだったのですが、時代の背景により現在は難しい状況になっています。だからこそ、そういった状況を少しでも改善し、社会に訴えていかなければならないと思います。

こども達が明るく健やかに、そして思いやりの心を育める場所を提供していくことは、私達が明るい豊かなまちを作っていく為に必要なことであると考えます。

このような背景から私達は 2007 年、2008 年と 2 年間に亘り高校と小学校の吹奏楽部の生徒達と合宿、合同練習をし、発表という一つの目標に向かって協力し心を通わせる異年齢交流事業を開催してまいりました。そしてこども達や保護者の方、学校にこの事業の素晴らしさをご理解いただきました。本年は異年齢交流事業をさらに広めて行く為に、新たな手法での開催を考えました。過去 2 年の事業を継承し今後の広がりを考え一部の学校限定ではなく、こども達やボランティアを公募で募集し関わっていただいた方に異年齢交流の素晴らしさを体験していただこうと思います。2 泊 3 日でのキャンプを通じ寝食を共にし、こども達が知恵を出し合い協力することで自分達だけの秘密基地を作り、交流を深めてもらいます。体験学習を通じてこども達がコミュニケーション力を伸ばし、社会性や協調性を学ぶ場としてキャンプやろうぜ！！GOGOGO を企画し、実施、検証いたしました。

2007 年異年齢交流事業概要

合宿 DE 合同演奏会 ～奏でよう！おもいやりのハーモニー～

(社) 鳥取青年会議所

開催日時	2007 年 10 月 11 日 (木) ～ 14 日 (日)
開催場所	練習会場：賀露小学校 宿泊会場：賀露地区公民館 発表会場：賀露小学校体育館
参加対象者	鳥取敬愛高等学校吹奏楽部の生徒 (11 名) ・ 賀露小学校の合奏部の児童 (19 名)
参加費	2000 円
協力者	鳥取敬愛高等学校吹奏楽部顧問 (2 名) ・ 賀露小学校合奏部顧問 (5 名) 賀露地区ボランティア (5 名)
主催	社団法人 鳥取青年会議所
事業概要	高校生と小学生という年齢の異なる子どもたちが吹奏楽発表会という共通の目標に向かい一緒に練習を行い、通学合宿で寝食生活を共にし、高校生は小学生の面倒を見て小学生は高校生に教わりながら色々な技術や工夫を身につけていくなかで、高校生は小学生から必要とされる充実感、責任感を感じ、小学生は高校生のお姉さんへの尊敬や憧れ、一緒にいる安心感を得、より密なコミュニケーションをとることでお互いに理解を深め「おもいやりの心」醸成することができました。

2008 年異年齢交流事業概要

第 2 回 合宿 D E 合同演奏会 ～響け！つながれ！おもしろいのハーモニー

(社) 鳥取青年会議所

開催日時	2008 年 9 月 13 日 (土) 10 月 31 日 (金) ~ 11 月 3 日 (月) 12 月 20 日 (土)	事前顔合わせ会 合宿・合同演奏会 砂丘イリュージョンオープニング参加
開催場所	練習会場：賀露小学校 宿泊会場：賀露地区公民館	
発表会場	木のまつり (11 月 3 日) 砂丘イリュージョン (12 月 20 日)	
参加対象者	鳥取敬愛高等学校吹奏楽部の生徒 (12 名)・賀露小学校の合奏部の児童 (26 名)	
参加費	3000 円 (内訳：食費、損害保険費他)	
協力者	鳥取敬愛高等学校吹奏楽部顧問 (2 名)・賀露小学校合奏部顧問 (7 名) 賀露地区ボランティア (15 名)	
主催	社団法人 鳥取青年会議所	
事業概要	高校生と小学生という年齢の異なる子どもたちが吹奏楽発表会という共通の目標に向かい一緒に練習を行い、また共に寝食生活をする事で、より密なコミュニケーションが取ることができました。新たにメンバーも加わり横のつながりも加わり、又、昨年参加した子どもたちには、よりコミュニケーション力とリーダーシップが得ることができ、高校生は小学生の面倒を見て、小学生は高校生に教わりながら色々な技術や工夫を身につけていくなかで、高校生は小学生から必要とされる充実感、責任感を感じ、小学生は高校生のお姉さんへの尊敬や憧れ、一緒にいる安心感、又、仲間意識も生まれました。また今回は複数の発表の場を用意し事前顔合わせ会から合宿木の祭り・鳥取砂丘イリュージョンまで長期の継続した交流によるより密なコミュニケーションを経験していただきさらにお互いに理解を深めることができました。	

異年齢交流事業概要

○ 異年齢交流についての意義

今の日本社会は少子化が進み、兄弟・姉妹で切磋琢磨の機会が減少したり親の過保護、過干渉が起きやすくなったりする状態になった。また、日常の子ども達の生活を見ると、塾通いが増えテレビゲームやインターネット普及により年齢の違う子ども同士と一緒に遊ぶ機会と時間が大きく減ってきた。このことにより異年齢の子ども同士の関係が希薄になってきている。また、核家族化などにより今の子ども達は多様な人間関係から社会性やコミュニケーション力を身につける機会が減っている。一方、これからの社会では一層、自己表現力やコミュニケーション能力が重要になると思われる。

親しい人同士ではコミュニケーションは順調に行われている。社会では初めて会った人、知らない人、普段あまり接することがない人、人生観・価値観の違う人、あるいは文化が違う外国人とコミュニケーションを取らなければならない場合がある。いつも親しい人の交流だけでは十分にコミュニケーション力は育つとはいえません。生徒会活動や部活動でも異年齢交流は行われていますが、多種多様な人間関係の中からコミュニケーション力を育てる一つの場となるのではないかと考えます。普段あまり交流がなく発達段階も違う児童や生徒同士が共に学習することによってコミュニケーションを取る機会が生まれると思います。

○ 小学生と高校生との異年齢交流のよさ

小学生の素朴な疑問を高校生が今まで解決した方法や学んだ知識を用いて分かりやすく説明することで、これまで学んだ学習内容の理解を深めることができる。

高校生は普段共に学んだり交流していない小学生の理解度を把握しながら分かりやすく表現したり、説明したり発表することで他者理解力や自己表現力を伸ばすことができる。

小学生はあまり交流のない高校生の意見を良く聞き理解しようとするところから普段の授業以上に他者理解力を伸ばすことができる。

高校生の進んだ表現方法、学習方法の知識を大人とは違った目線で学ぶことができる。

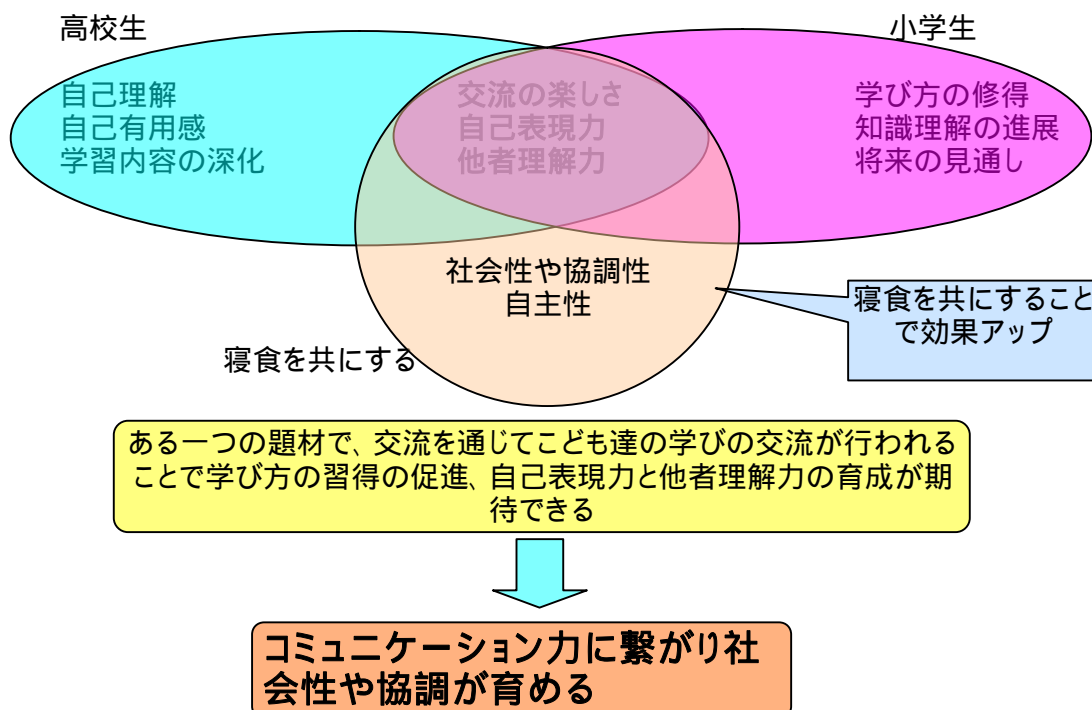
小学生の評価を受けることで、高校生の自己評価が高まる。

高校生は小学生に指導することで「役に立った」という自己有用感を持つことができる。

年齢が離れているからこそ高校生は優しく接することができ、小学生は意見を聞き入れることができる。

○ 寝食を共にするとさらに効果があがる

寝食を共にし長時間交流する時間を増やすことで様々な問題を解決し、コミュニケーション力を伸ばすことができる。



2009 年事業概要
キャンプやろうぜ！！GOGOGO

(社)鳥取青年会議所

開催日時	2009 年 9 月 19 日 (土) 13 時 ~ 9 月 21 日 (月) 13 時まで		
開催場所	安徳の里 姫路公園		
参加対象者	公募による因幡地域の小学生(3~6 年生)49 名、高校生(1~3 年)4 名		
参加費	3000 円 (内訳：食費、損害保険費、テント貸費他)		
協力者	一般ボランティア 19 名 (内 4 名は企画演出部分でも参加)、鳥取 ボーイスカウト連盟鳥取第 2 団、日本レクリエーション協会		
主催	社団法人 鳥取青年会議所		
事業プログラム	9 月 19 日 (土)	自己紹介、オリエンテーション、夕食作り、 お楽しみイベント	
	9 月 20 日 (日)	朝昼作り、グループに分かれての秘密基地作 り、ドラム缶風呂、流しうどん、バーベキュー、 キャンプファイヤー	
	9 月 21 日 (月)	秘密基地プレゼンテーション、清掃活動	
目的	高校生と小学生という世代の違うこども達が自然の中で 2 泊 3 日一緒にキャンプをし、様々な交流の中でお互いに知恵を出し合い協力していく。また秘密基地を作り上げることで普段関わりのない世代が楽しみながらコミュニケーションを取り、助け合うことで社会性、協調性を学びコミュニケーション力を伸ばす。 因幡地域全域での参加者、ボランティアを募集し、因幡地域の人に異年齢交流事業を発信し多くの人に関わっていただくことで、その素晴らしさを体感していただき、我々の活動の環、異年齢交流事業の環、人と人の繋がりの環を広げていきたいと思います。		

キャンプ初日

開会式



オリエンテーション



テント張り



テント張り



夕食のカレー作り



夕食のカレー作り



ナイトウォーク



ナイトウォーク



足湯



9月19日(土)スケジュール

12:00	受付開始
13:00	開会式 理事長挨拶 委員長挨拶
13:20	事業説明
13:30	オリエンテーション (各班での役割決めや設計図作り)
15:00	テント張り 火おこし カレー作り
18:15	夕食 各班で片付け
19:00	お楽しみイベント (ナイトウォーク、足湯)
21:00	お風呂タイム(希望者)
21:45	班長ミーティング
22:00	就寝

9月19日(土)晴天の中で開会式がはじまり49名の小学生と4名の高校生、ボランティアの大学生5名と8班に分かれての2泊3日のキャンプ生活がスタートしました。緊張の中、こども達は各班に分かれてのオリエンテーションで初対面し3日間のスケジュール、注意事項を各班の担当のJCメンバー、ボランティアの方に説明を受け、班のリーダー、役割を決め班のシンボル旗作成、2日目の秘密基地作りの設計図を描き場所決めを行いました。続いては各班の担当に分かれてテントを張り、夕方のカレー作りを開始！初めて握る包丁や火おこし、テントを張るのも四苦八苦しながらみんなで協力しながら作業をこなしていました。みんなで作ったカレーを食べた後は夜のお楽しみイベント！ナイトウォークです。少し肝試しチックなイベントで三つの指令をこなしながら、真っ暗な夜道を歩いていきます。帰ってきたらドラム缶風呂で焚いたお湯で作った足湯で1日の疲れを取りました。初日はやはり緊張していたのか行動もばらばらで黙々と作業をしていましたが、夕方にはしだいに笑顔になり、班の行動もまとまってきました。明日に備えてみんな10時には就寝しました。

キャンプ2日目

ラジオ体操、朝食



秘密基地作り



秘密基地作り



昼食～流しうどん～



ドラム缶風呂



歌の練習



夕食～バーベキュー



キャンプファイヤー



キャンプファイヤー



9月20日(日)スケジュール

6:30	起床
7:00	朝食準備 ラジオ体操
8:00	朝食(おにぎりとスープ)
8:30	朝食片付け
8:45	清掃
9:00	基地作り開始
11:00	昼食準備
12:30	昼食(うどん)
13:10	片付け
13:30	作業開始
15:00	班に分かれてドラム缶風呂
16:50	作業終了
17:00	夕食(バーベキュー)
18:30	自由時間
20:30	キャンプファイヤー
21:30	終了後お風呂
21:45	班長ミーティング
22:00	就寝

9月20日(日)本日も晴天の中、朝6時半に起床！眠たい目をこすりながらみんなでラジオ体操。そのあと班に分かれておにぎりとお味噌汁で朝食をとりました。そしてキャンプのメインイベント秘密基地作りの開始です。竹を昨日決めた場所へ運び、麻紐だけで組みあげていきます。設計図をみながら、みんなで協力していました。秘密基地を作りながらお昼の流うどん用の器と箸も作りました。秘密基地作りを少し中断してお昼は流うどんを楽しみました。秘密基地作りを再開。途中で希望者を募ってドラム缶風呂に入りました。初めて入るドラム缶風呂は、とっても気持ちよかったです。作業が終わった班から夜のキャンプファイヤーの歌の練習をし、ひとまず休憩。時間一杯まで秘密基地を作っていた班もありました。ひと段落したあと、夜のお楽しみのひとつバーベキュー。みんなで食材を準備し、みんなでワイワイお肉や野菜を沢山食べました。最後はキャンプファイヤーです。トーチを班のリーダーが持ちひとりひとり組み木にくべていきます。大きな火がおこり、みんなで歌とダンスで盛り上がり最後は静かに火を見つめ、2日間を振り返りました。楽しいキャンプ生活も後1日、今日も無事に1日を終えることができました。

キャンプ3日目

朝の様子



秘密基地のプレゼンテーション



秘密基地のプレゼンテーション



秘密基地のプレゼンテーション～人気投票、結果発表



テント後片付け、清掃作業



閉会式



9月21日(月)スケジュール

6:30	起床
7:00	朝食準備・ラジオ体操
8:00	朝食(パンとジュース)
8:30	朝食片付け
9:30	秘密基地撤去プレゼンテーション
11:00	テント撤去と清掃活動
12:30	閉会式
13:10	解散

9月21日(月)晴天の中2泊3日のキャンプ生活も最終日になりました。最終日は昨日みんなで作った秘密基地をプレゼンテーションしてもらいました。設計図通りにつくることできたのでしょうか？昨日と同じく6時半には起床！今日はみんな起きていました。ラジオ体操をすませ、パンとジュースで朝ごはん、清掃をすませ秘密基地をみんなで見て周り、班のリーダーにプレゼンしてもらい、自己評価してもらいました。どの班も力作で甲乙つけがたいです。終わったあとはそれぞれの基地で自由に見学し、人気投票を行いました。結果は3班が優勝、同点2位が1班と5班でした。みんなよくがんばりました。結果発表後みんなでテントを片付け、荷物をまとめ、施設内の清掃活動を行い閉会式を迎え2泊3日のキャンプも終わりをづけました。参加してくれた子ども達はこのキャンプで何かを学んでくれたと思います。閉会式で楽しかったかと聞いた時全員が手をあげてくれました。本当に楽しく過ごせてくれたんだなと思い、感無量でした。この事業に参加していただいた方本当にお疲れ様でした。

キャンプやろうぜ！！GOGOGO

参加者用アンケート結果

1. あなたは高校生ですか？小学生ですか？

大学生 0人 高校生 2人 小学生 34人

合計 36人

2. あなたは事業に参加して高校生（大学生）（小学生）に対してイメージに変化がありましたか？

変化はない（24）・・・思っていた通りやさしい、小学生は相変わらず生意気 など

変化があった（11）・・・思ったよりやさしい、怖いと思っていたのに案外よくしゃべった

自分達よりいろいろなことができてすごいと思った など

3. あなたは事業中に高校生（大学生）（小学生）に対して円滑にコミュニケーションがとれましたか？

とれた 22人 まぁまぁとれた 12人 あまりとれなかった・とれなかった 1人

4. キャンプを通じて学んだこと気づいたことを教えてください。

友達や、お兄さん、お姉さんと協力・助け合うことの大切さ（9） 友達のやさしさ（1） キャンプの手法（3）

みんなで協力しないと何もできないということ（6） 自分でいろいろな事をして家でも役立つ（6）

誰とでも1日ごとに友達になっていくこと（2） 竹を焼くと音が鳴る（1） 買えば簡単に手に入る物も作ると

大変なこと（1） 秘密基地作りの楽しさ（1） など

5. 今後このような異年齢交流事業があるとすればまた参加したいですか？

参加したい 34人 参加したくない 1人

6. 問5の理由を教えてください。

他の人達と仲良くなれるから（9） 新しい出会いがあるかもしれないから（1） ものすごく楽しかったから（1

9）山で遊ぶことが、あまりないから（1） 班のメンバーが非協力的だったから（1） いろいろな人とコミュニ

ケーションを取りたい（1）

7. この事業に参加して良かった点、悪かった点を教えてください。

良かった点・・・知らない人と仲良くなれたこと（12） 自分達でいろいろな物を作るのが楽しかった（7）

いろいろな経験が出来た（9） 新たな自分に気づけた（2）

悪かった点・・・少し時間が長かったこと 班の男子がテントを蹴ったりして悪戯されたこと

手を切ったりしたこと さむかった

8. その他ご意見等がございましたらご記入ください。

またキャンプに行きたい ドラム缶風呂にまた入りたい 2泊でなく1泊が良い テントを大きくして欲しい

キャンプやろうぜ！！GOGOGO

保護者用アンケート結果

1. 今回本事業にお子さんを参加させてどうでしたか？

参加させてよかった・・・31人

理由 新しい友達ができた(4) 異年齢交流(高校生・大学生・大人)ができた(3) 本人が楽しめた(10)
自炊等の体験が出来よかった(5) 本人のプラスになった(3) キャンプの手順に理解を深めた(1)
普段味わえないことが体験できた(1)

2. お子さんに変化があれば具体的にお聞かせ下さい。

変化があった・・・8人

親離れしていつている(1) 物を大切にしている(2) かたづけを行うようになった(1) 積極性が出てきた(3)
自分の事は、自分ですするという当たり前の事が出来てきた(2) 率先して手伝いを行うようになった(2)
自分を表現できるようになった(2) 工作にはまっている(1)

特になし・・・15人

元々、異年齢に対する抵抗がなく、特に変化はない(1)

3. このような事業の開催日数について、何日位がいいと思われますか？

1日 2日・・・12人 3日・・・17人 4日 5日・・・2人 6日 7日以上

4. 私ども(社)鳥取青年会議所は、継続して異年齢交流事業を開催していきたいと考えています。今回のように、年を隔てたこども同士の交流を一過性ではなく継続的に行う事についてどう思われますか？また、その実現の可能性や障害になるであろう物(事)をお書き下さい。

賛成・・・28人

理由 異年齢で遊ぶ機会が少なくなっているから(4) 一人っ子で異年齢交流の機会が無いから(1)
現在は、自然な上下関係での交流が出来なくなっているから(1)

その他・・・3人

理由 安心して子供を預けることの出来るリーダーが必要(2)

継続の為に課題

- ・高学年の部活動(7) ・世間の情勢(インフルエンザ、事件等)(1)
- ・実施時期(体調管理等の面で)(1) ・学校、地域の行事とのからみ(2)

5. その他、ご意見等ございましたらご記入下さい。

- ・今回、チラシをみて事業に参加した、今後も積極的に宣伝してほしい。
- ・高校生、大学生の人数をふやしてほしい。
- ・HPにて我が子の様子が見れてよかった。

キャンプやろうぜ！GOGOGO 参加者感想文

高校生

高校生 2年 女子

いろんなことができて良かったけど2泊3日は長かった。おふろとかはいれんし1泊がよかった。キャンプファイヤーと基地作りたのしかった。来年もやるのであれば、1泊2日で高校生もっと増やしてほしい。以上。

高校生 1年 男子

今回のこの企画に参加して思ったことは、「つかれた」というのがあるんですけど、「良かった」と思えることもたくさんありました。例えば、自分の考えと他の人の考えの違いをどう工夫すればいっしょに楽しく出来るかななどを今後も考えていかないといけないと感じたことです。これからこんな企画があるなら行ってみようかなと思います。

小学生

小学生 6年 男子

ぼくは今日、生まれて初めてのキャンプなのでドキドキワクワクしました。初めは班で役割分担決めがありました。それでぼくはテント張り係りになりました。そしてテントを張りごはんを食べてねました。その次の日は一日中、秘密基地を作りました。そして、夕方にはドラムかんぶろにはいりました。そしたら足がちくちくしました。そしてやっと秘密基地が完成しました。そしてバーベキューを食べてねました。最後の日はお母さんたちが来て、僕達の秘密基地が評価されて優勝しました。うれしかったです。それが一番心に残りました。楽しいキャンプでした

小学生 6年 男子

最初は、ちょっとふあんもあったけど、とちゅうからふあんもきえて大学生やほかの学校の友達とたのしくキャンプができました。一番心に残ったのは、きちづくりです。きちづくりの材料の竹をきったり穴をあけたりひもでむすんだりやってとてもいいきちがつくれて、つくっているとちゅうは大変だったけど、作りおわったときはその何倍もうれしかったです。またこんな事業があったらぜひいきたいです。

小学生 6年 女子

キャンプをして、沢山、いろいろな事を学びました。最初は、どんなことをするのだろうと思っていたりしてました。でも、1日1日たっていくうちにとても楽しくなっていました。このキャンプで友達の関係もよくなっていました。2泊3日で、2回も寝るのが「え～」と思ったけど楽しかったです。体験したことなかった秘密基地づくりや自分達でつくったはしやおわんでお肉を食べた事など、貴重な思い出になりました。ありがとうございました。

小学生 5年 女子

わたしはこのキャンプで人と協力し合うことを学びました。一番協力し合うことが大切だと思った時は、食事作りです。わたしは、食事係ではないけれど、ご飯を作る時よく手伝いをしていました。わたしは家でめったに手伝うことがないから、あまり分からなかったけど、班の人に教えてもらったりしてうまく作っていました。キャンプ最初のカレー作りの時、最初はテントを建てていたけれどひまになったから、なんとなく手伝いに行ったら、大変だったらしくいっぱいやるがありました。いやな時もあったけど、ちょっと交代してもらったりしてがんばりました。みんながおいしそうに食べていたのでうれしかったです。みんなが協力したから、ほかの班におくれることなく出来上がったと思います。

小学生 4年 男子

ぼくはキャンプをしてよかったなあと思います。なぜかというふだんできないことだし一度やってみたかったからです。おもしろかった所は、ひみつきち作りとドラムかんぶろでした。ひみつきち作りでは、心を1つにしてみんなでがんばって作っていたので良かったです。ドラムかんぶろでは、めちゃくちゃあついと思っていたけどちょうど良かったです。本当に楽しい三日間でした。キャンプをして友達とも仲よしになった人がいたから良かったです。またこういう機会があたら参加したいと思いました。ありがとうございました。

小学生 4年 男子

知らない学校のひとでも、すぐ友達がつくれた。みんなで作った、ごはんは、とてもおいしかった。みんなと、夜の探けんは、とても楽しかった。テントはりは、みんなで協力しても、とても、たいへんだったけどとても楽しかった。

小学生 4年 女子

キャンプに行く前から私は楽しみにしていました。1日目はカレー作りときもだめしが楽しかったです。2日目は、きち作りが楽しかったです。チームのみんなときょう力してきちがかんせいしてうれしかったです。バーベキューも楽しかったです。3日目はきちの発表をするのが楽しかったです。1位と2位はとれなかったのがくやしかったです。また来年もさんかしたいです。お世話になりありがとうございました。

小学生 4年 女子

キャンプで楽しかったことは、ひみつきち作りです。最初、せつ計図を考えるのがたいへんでした。だから、2日目は、せつ計図通りにできませんでした。でも、みんなのアイディアで、いいのができました。班みんなで、協力をして、がんばってつくれたし、コンクールで優勝したから、うれしかったです。

小学生 4年 男子

ぼくはキャンプは何回かしたことはあるけどキャンプファイヤーは初めてしてとても熱かったけど楽しかったです。きち作りでは最初はみんながばらばらでできなかったけど後になってみんながまとまっていいきちができたので良かったです。また今度も行きたいです。

小学生 3年 男子

ぼくは、キャンプで思い出ができました。このキャンプでよかった所はみんなとふれ合える所です。ぼくは、みんなと友だちになれました。あとひみつきちを作れる所です。のくは、ひみつきちを作るのがはじめてでした。でも、けっこうおもしろかったです。でも竹が頭におちてきたのはいたかったです。ぼくは、このキャンプで一番思った事は、みんながぼくをはげましてくれて友だちになれた事です。あれはうれしかったです。ぼくは、そのでき事を一しょうわすれないと思います。このキャンプやろうぜG O G O G Oは楽しかったしサイコーでした。

キャンプボランティア感想文

一般参加 30 代女性

日常生活において、自然と触れ合う機会も減ってくる中、今回の「キャンプボランティア」を通じて様々なことを学びました。「こうできたらいいな」という、はじまるまでの自身のイメージとはうらはらに 年齢に関係なく 人対人 との関わりというのは事前の計画に関係なくいろいろな予測のつかない出来事が起こってくるのだなぁと改めて痛感いたしました。また、自身が感じた以上に、1 日目～3 日目へと時間が進むにつれ 子供たちの表情が変わってく様子を肌で感じ、微力ながら その変化の一端を自分もお手伝いできたことを嬉しく思います。

また、星山さんをはじめ、今回の体験を通じていろいろな方々との交流の中にも、仕事やプライベートとは異なった学びを感じることができました。

キャンプ期間もさることながら、事前の打ち合わせ段階からみなさまと関わらせていただいたこと、

大変感謝しております。ありがとうございました。

今回の体験から 自身も得るものが非常に多く 今後ともこのような機会がありましたら、都合の付く限り参加させて頂きたいと感じておりますので、あわせてよろしくお願いいたします。

大学生 4 年 男性

キャンプやろうぜ！！G O G O G O 楽しかったです。

初めにこの事業のスタッフの誘いを受けた時、参加するこどももスタッフも両方足りていないと聞いていたので、当日にあれだけの人が集まってとても安心しました。

異年齢交流ということで、小学生と高校生・大学生がキャンプを通して、それぞれ得たものがあつたのが皆の顔を見ていたら分かりました。僕自身、小学生や中学生と交流をもつ機会は多いのですが、2 泊 3 日で何かをやりとげるといことは、あまりないので、「こんな短期間でこどもって成長するんだ！？」と感動しました。

スタッフとして集まった大学生メンバー全員が同じように感じたと思います。今後もし非、鳥取青年会議所の事業に誘ってもらい、共に学び発展していきたいと思います。

事業の考察（案）

○ 交流について～

こども達は普段味わえない体験を通し、初めて出会う者同士や高校生、大学生、大人とコミュニケーションの取り方、誰とでも仲良くなる術や、協力し合わなければ何もできないということ学んでもらうことができました。また、3日間の中で思い通りにいかないことや考えの違う人と班行動することで、社会性を学んでもらうことができました。しかし、全ての班がうまく機能したわけではなく、男女間の距離、年齢の違いからくる共通の話題の不足などでコミュニケーションをうまく取れないことでストレスを感じている参加者も見られました。本年は高校生、大学生1～2人と小学生5～6人が一つの班での活動をしており、年長者がもう少し多ければ年長者同士の交流や意見交換等もできた点が新たな課題として揚げられます。

○ 動員について～

本年は因幡地域全域に異年齢交流の必要性の周知と理解を求め公募という形で小学生、高校生、一般ボランティアの募集をおこないました。小学生とその保護者の皆様には他では得がたい体験として、一般ボランティアの皆様には自己修練などの目的で多くのご参加をいただきましたが、高校生の動員には苦戦しました。参加いただけた高校生のアンケートから十分楽しみ色々と気づくことも多く、満足してもらえたことがわかりましたが、公募で高校生を動員に繋げるためには、参加するメリットや時間、金銭面などでまだ多く問題があり課題が残る結果となりました。

○ ボランティアについて～

本年度は、一般公募という形で参加者が非常に多かったです。一部の方には、企画、演出、こども達との交流などについて参画をしていただき、積極的に活動して頂きました。参加していただけたボランティアの方々是因幡地域と子供たちの未来について、真剣に考えておられ、今回のような異年齢交流事業という取り組みに自ら積極的に参加し、真剣に学びを得られようとされていた事は、今回の異年齢交流事業での大きな収穫の一つだったと思います。今回のように地域の方々一人一人の力が、増えていけば、これからのこども達に対して、今後、より素晴らしい環境と、より素晴らしい取り組みが行えるのではないかと考えます。

○ 運営について～

本年は一昨年、昨年と違いキャンプという手法を用いました。参加者や保護者また一般のボランティアの方々には楽しく充実した時間を過ごしてもらうことができました。多くの参加者、保護者、ボランティアから、また来年も参加したい、この事業を継続して欲しいとの意見、要望を聞くことができました。運営側の課題として、当日の対応等に経験不足な面があり、こども達に対しての対応も自由度を高める為に大人は見守るようにしましたが、プログラム(スケジュール)をこなす為に結果として大人が作業をする場面があったなどが揚げられます。

教育関係者の感想

鳥取市教育委員会教育長 中川 俊隆様

こども達のたての繋がりが希薄になっている現在の状況の中、このような取り組みはとても重要であります。昔であれば各地域で世代間の交流が自然に出来ていましたが、今は大人がこども達の交流をさせる仕掛けを作らなければなりません。私も「キャンプやろうぜ！！GOGOGO」を見学しましたが、こども達にとってとても良い事業だと思いました。こども達に貴重な経験を与えていただいた鳥取青年会議所に対して感謝と敬意を申し上げます。今回で3回目を迎える鳥取青年会議所の異年齢交流事業は、この地域の青少年育成に大きな貢献をしています。今後も、貴青年会議所のご活躍に期待しております。

鳥取県教育委員会教育長 中永 廣樹様

こどもたちが自然体験、社会体験不足により他人と関わる力やコミュニケーション力が落ちてきており、大きな社会問題になっています。また、こどもたちが社会にでていくには自分で、工夫して、考えて行動するということを学ばなければなりません。社会性や協調性といった、人として必要な能力を身につける場として、この「キャンプやろうぜ！！GOGOGO」は良い事業だと思います。家族から離れ、自分達だけで生活をしたことで、こどもたちは人の気持ちふれ、人と人とのつながりを感じ、心に響く感動があったと思います。

現在の学校生活だけでは、このような体験をこどもたちに与えていくことは難しくなってきました。また、家庭や地域の力も少し低下してきています。だからこそ学校、家庭、地域が協力し、こどもたちに青少年育成の場を作っていく必要があると思います。

おわりに

本事業『キャンプやろうぜ！！G O G O G O』を開催するにあたり、因幡地域全域の各小学校、高等学校、教育関係者各位様には当事業の趣旨をご理解いただきご協力を賜りましたことを心より感謝し御礼を申し上げます。又、鳥取ボーイスカウト連盟、鳥取第2団、日本レクリエーション協会様にはキャンプやイベントへのアドバイスを、そして一般のボランティアの方々には企画演出や、当日の運営、後片付けに至るまで多大なるご支援を賜りましたことを心より感謝し御礼を申し上げます。事業の準備段階から多くの方のご意見を頂戴するなかで因幡地域への発信が重要なことであると感じ、我々が2007年2008年に行った異年齢交流事業で培われた経験を活かし、因幡地域全域に公募という形で異年齢交流を発信することができました。ご参加いただいたボランティアの皆様には異年齢交流についての意識が高く、事業を共にこなっていく中で心から楽しみながら参画、参加していただけたと感じております。当初、こども達は不安な顔で違う学校、年齢、大人達の中で、うまく協力し合うことができずに班の中で四苦八苦しながらも1日目を終えていました。しかし、事業のプログラムが進んでいくと互いに協力し合い、高校生、大学生は小学生を積極的にリードするようになっていき、時間とともに小学生は高校生、大学生を慕っていくようになりました。こども達は私達が思う以上に適応力が高く、また純粋にキャンプを楽しみ、コミュニケーションをとることができました。

この事業を知っていただき、楽しそうだな、素晴らしい取り組みだと思われても、これだけの人数のキャンプを運営するのは時間的や金銭的な面、又協力者の確保など困難な部分は少なくありません。しかし、今回のような大規模な事業ではなく、もっと身近な人達で、力を合わせ、こども達の未来の為に、一步を踏み出すことができるのであればそれはこども達にとってより良い教育環境になっていくのではないのでしょうか。こども達は近い将来、社会に巣立っていき、その時、異年齢交流体験はきっと役に立つときが来るのです。こども達が、大人になった時に、異年齢交流を次代のこども達に繋げていける環境を構築する事こそ、人と人との環が広がり明るい豊かな社会が築けるのではないのでしょうか。

最後となりましたが、この度御協力、御参加していただいたすべての方に厚く御礼申し上げます。

発行者 社団法人 鳥取青年会議所

発行 2009 年 11 月

住所 : 鳥取市本町 3 丁目 201 番地

T E L (0857) 24 - 1638

F A X (0857) 24 - 1608

E-mail torijc@hal.ne.jp

HP URL <http://torijc.main.jp>

2009 年度 (社) 鳥取青年会議所 青少年育成委員会

委員長 星山 君泰

副委員長 西村 俊二

保木本 秀行 松本 寿一 高藤 大祐

青木 隆之 三上 博史 谷口 道明

前田 和俊 藤田 直也 猪口 綾野